

夜空を流れる星が

愛する人々の

願いをかなえるという

サン・ロレンツォの夜。

1944年、

流れ星がふりしきる夏

ナチスの支配する村から

人々は愛と勇気の

旅に出発した。

タヴィアーニ兄弟監督の

笑いと涙と感動の傑作ノ

1982年カンヌ映画祭

審査員特別大賞受賞



LA NOTTE DI SAN LORENZO



オメロ・アントヌッティ  
マルガリータ・ロサーノ  
ミコル・グイデッリ  
クラウディオ・ピガリ  
マッシモ・ボネッティ  
サビーナ・ヴァヌッキ  
マリオ・スパーリーノ

パウ・シリーズ作品  
フランス映画社提供

# サン・ロレンツォの夜

パオロ&ヴィットリオ・タヴィアーニ  
監督・脚本作品

脚本協力 ● トニーノ・グエッラ

撮影 ● フランコ・ディ・ジャコモ

音楽 ● ニコラ・ピオヴァーニ

美術 ● ジャンニ・ズバッラ

製作 ● ジュリアーニ・G・デ・ネグリ

RAI + AGER CINEMOTO-  
GRAFICA 製作(カラー)  
(イタリア映画)

1982年カンヌ映画祭エキュメニク賞

# サン★ロレンツォの夜

パウ・シリーズ  
フランス映画社提供

カラー作品  
(イタリア映画)

流れ星が愛する人々の願いをかなえるという言い伝えは世界各地にあるが、イタリア中部トスカーナ地方では、8月10日、聖ロレンツォの日の夜の流れ星に祈れば、願いは必ずかなうと信じられている。

「父(パードレ・パドローネ)」(カンヌ映画祭77年度グランプリ受賞)で知られる、ヴィットリオ・タヴィアーニとパオロ・タヴィアーニの兄弟監督の最新作「サン★ロレンツォの夜」は、生れ故郷のトスカナを舞台に、第二次大戦末期、ナチス・ドイツとファシストが支配する村を脱出してアメリカ軍を探し求める危険な旅に出発した人々を描いて、流れ星に愛と勇気を祈る映画になっている。

「サン★ロレンツォの夜」は82年のカンヌ映画祭にコンクール参加作品として出品され、映像の美しさと抒情性で人々を酔わせ、笑わせ、泣かせて大喝采をあげた。拍手し、笑いながらも、それが同じ村の幼なじみや親戚の間で起っている事件で、あい撃ちあい傷つけあいながら、介抱の水を求めあつてはまた殺しあうという、やさしさと残酷さが背中あわせになったシーンの連続が衝撃的な感動を呼び起して、上映後にたちまちグランプリの呼び声がかかった。

カンヌ映画祭で異例の連続受賞

しかしタヴィアーニ兄弟の前回の出品作、「父(パードレ・パドローネ)」がグランプリを受賞している。カンヌでは一度グランプリを受賞すると、招待参加作品として特別扱いするのがしきたりで、コンクールに参加しても受賞のチャンスは始まらない。フェデリコ・フェリーニの映画はいつも特別招待作品であり、過去の特例は「カンパセリオン・盗聴」と「地獄の黙示録」で二度グランプリを受賞

したコッポラくらいだが、「黙示録」は特例づくめだったから、「サン★ロレンツォの夜」は無理だろう、惜しい事だと、あきらめと同情の声が高かった。それだけに、審査委員会が「サン★ロレンツォの夜」に審査員特別大賞授賞を発表した時には、タヴィアーニ兄弟への祝福の拍手と同時に、あえて例をまげた審査委員会も賞讃されるという異例の風景が出現した。



「リアリズムとリリシズムの昇華……内戦のおぞましさがかくも見事に描かれた映画はなかった(テレマ誌)」「映画史上かつてなく感動的で最もつしむふかいラブシーン」(エクスプレス誌)、「子供の目を通しての戦争映画は凡庸になりがちだが、タヴィアーニ兄弟

が非凡なのは、子供が大人になるのでなく、大人がかつて子供だった事をよく知っているからだ(リベラシオン紙)、「10年に1度しかめぐりあえない映画」(パリスコープ誌)と、絶賛はカンヌ映画祭から、いまパリの公開でも続いている。

タヴィアーニ兄弟監督・プロフィール

タヴィアーニ兄弟は、兄のヴィットリオ(下写真の左)が29年9月20日、弟のパオロ(下写真の右)が31年11月8日、トスカナ地方サン・ミニアートの生まれで、この映画で起きた事件は兄弟が幼い頃に実際に体験した事実だという。ふたりの父で弁護士だった父が、ガルヴァーノ役に投影されており、タヴィアーニ

家(サン・ミニアート)の村で最初に爆破される運命にあつたという。ヴィットリオとパオロは、54年につくった最初の短篇いらい長篇劇映画第9作の「サン★ロレンツォの夜」まで、一作として離れずに、常にふたりで脚本を書きふたりで演出する珍しい映画作家である。映像と音の衝撃的な手法を特徴としているが、この映画でも、トスカナの地方音楽をもとに、「リパブリック賛歌」のマーチ、ヴェルディやワグナーのリアアのシーンが深い印象を残す。出演は、「父(パードレ・パドローネ)」「アレクサンダー大王」のオメロ・アントヌッティ、「ビルディアナ」のマルガリータ・ロサーノ



アイデッリの場合、ガルヴァーノの娘とその夫を演じるのが両親、15歳のファシスト少年が兄、新婚ベリンディアが姉、チエチリアと一緒に米兵を発見する少女が妹と一家総出演である。

【スタッフ】

監督……………パオロ&ヴィットリオ・タヴィアーニ  
脚本……………パオロ&ヴィットリオ・タヴィアーニ  
ジュリアーニ・G・デ・ネグリ

脚本協力……………トニーノ・グエッラ  
撮影……………フランコ・ディ・ジャコモ  
音楽……………ニコラ・ピオヴァーニ  
美術……………ジャンニ・ズバッラ  
製作……………ジュリアーニ・G・デ・ネグリ

【キャスト】

ガルヴァーノ……………オメロ・アントヌッティ  
コンチエッタ……………マルガリータ・ロサーノ  
少女チエチリア……………ミコル・グイデッリ  
チエチリアの母イヴァーナ……………ノルマ・マルテッリ  
コラード……………クラウドディオ・ピガリ  
妻ベリンディア……………ミリアム・グイデッリ  
RAI+AGER CINEMATOGRAFICA製作 1982年度作品  
イタリア映画 アグファ・ゲヴァ・カラー スタンダード  
(1×1.66) 1時間47分 6巻 2,936m  
1982年カンヌ国際映画祭審査員特別大賞  
同映画祭エキュメニク賞



以外は全員映画初出演の人々。少女チエチリア役のミコル・グイデッリの場合、ガルヴァーノの娘とその夫を演じるのが両親、15歳のファシスト少年が兄、新婚ベリンディアが姉、チエチリアと一緒に米兵を発見する少女が妹と一家総出演である。

**2月11日(祝)より**

**新春ロードショー**

**お得な特別鑑賞券1200円** 一般1500円 学生1300円

**新宿文化シネマ2** (354) 2098

**発売中**

●劇場窓口、都内プレイガイド、大学生協でお求め下さい。

●グループ鑑賞のお申込は(株)メイジャー(541)2508へ。

|     |       |       |      |      |
|-----|-------|-------|------|------|
| 平日  | 12:15 | 2:30  | 4:45 | 7:00 |
| 日・祝 | 10:15 | 12:15 | 2:30 | 4:45 |